

19歳綱領を読み進め

京都府 学生

京都府のある地区が18日、以前、入党を働きかけた19歳の学生に再度訴えて党に迎えようとした。学生は入党で新たに学生支部が結成されました。

入党した学生は他県の民青同盟のスタンディングに参加し、今年6月に同県の民青に加盟。その後、京都府の民青に転籍して学生支部の班会議で志位和夫議長、科学主義、Q&Aを学習し、班の同盟員たちと一緒に在日コリアン居住地の人権や平和の大切さを伝えるウトロ平和祈念館 全治市 を見学するフィールドワークに参加しました。

7月に山添拓参院議員を迎えたトークライブに参加した際、民青班の党員の学生が入党を働きかけたが「まだ入党までは考えていない」と返事しました。「赤リフ2」と党綱領を渡され「また話ししよう」と言われて別れました。

民青の班会議や活動は継続し、8月には志位和夫議長が講義する『資本論』講座にも参加しました。また、手渡した「赤リフ2」や党綱領を自分で読み進めていました。

様子を見ていた民青班の学生や地区の青年・学生部長たちは、18日に、再度、ミニ「集い」を開いて入党を働きかけました。学生は「赤リフは政治に求めることが網羅されている」「特に1章と3章、4章に

集い続け 支部できた

日本共産党

党活動

火・水・木・土曜付

を党に迎え、支部結成に必要な「3人以上」を達成しました。この保育園で1人の党員が働いていたところに、3年前、別の保育園が地域支部で入党し、同一職場に党員2人になりました。2年前、職場支部結成を目指して準備支部として取り組みを開始。1年半前から、同僚に呼びかけて毎月1回程度の「集い」を続けています。

「集い」は、「赤本」学習のほかに、党創立記念講演ライブ、スタンプラリー、情勢学習などを行っています。シフトの都合が合った保育士が毎回2〜3人参加しています。

愛知・尾張東部 保育士

愛知県の尾張東部地区で19日、2人の党員が働く保育園の職場準備支部が「赤本」学習の「集い」を開いて30代の保育士

19日の「集い」では、党外から3人参加。榎野史地区委員長が援助に入り、「赤本」の搾取の仕組みの箇所を学びました。入党した保育士は、感想交流で黙っていました。個別に話を聞くと、「搾取とはそういうことかとよく分かった。どうやったら資本主義を変えられるのかと、考え込んでしまった」と話しました。その保育士は結婚しているパートナーが失業し、ぎりぎりまで長時間残業させられ、自らも子育てに悩みながら働いていました。

あらためて入党を訴え、「私のような勉強不足でも大丈夫ですか」という不安に、職場の党員が「学習が必要なのは、みんな一緒だから学んでいこう」と励まし、入党を申し込みました。

今後、職場支部の結成総会へ日程調整などを行います。

30代「搾取とは」学び

19日「今後の地区委員会を担う幹部のための連続講座」の最終回となる党史の講座が、党本部と全国の会場をオンラインで結んで行われました。幹部会委員の岩崎明日香労働局長が講師を務めました。

講義する岩崎明日香・労働局長(19日) 党本部



岩崎氏は冒頭、日本共産党の100年の歩みを「たたかいの弁証法」が貫かれた開拓と苦闘の歴史として学ぶことの大切さについて、自身の経験交えて語りました。戦前から活動した共産党作家である宮本百合子の『真実を生きた女性たち』の一節を紹介した

岩崎氏「先輩たちの生きた来、悩むたびに先輩に相談

開拓の歴史継ぎ党大きく 岩崎労働局長が講義

「今後の地区委員会を担う幹部のための連続講座」最終回

岩崎氏は「戦前から活動した共産党作家である宮本百合子の『真実を生きた女性たち』の一節を紹介した。岩崎氏「先輩たちの生きた来、悩むたびに先輩に相談

年金・9条 駅前対話

東京・小平市

東京都小平市の西武新宿線小金井駅北口で20日、宮本徹元衆院議員と党小平市議団の街頭演説がおこなわれ地元党員・後援会員が参加しました。小雨なか要求対話に応じる人もいました。

スパーの買い物帰りにアンケートに答えた60代の人は、生活で不安に思うこととして「年金、子どもたちが受け取る額にどうなっているのか」と話している。高市首相を支持しているとしながら「日本はアメリカを追いついて台湾有事になると確信に巻き込まれる」と危機感を表明しました。70代の人は「高市政権は危険」部も交えて懇談しました。



訴える宮本徹元衆院議員(右から2人目)と左から、ほそや正、鈴木だいち、三輪博美小平市議=20日、東京都小平市の西武新宿線小金井駅前

物価高騰に怒り 3人

北海道旭川市 業者

北海道旭川市の業者団体の党グループ・支部は19日、合同で業者訪問を行い、切実な要求を聞き取りながら対話するなかで「赤旗」日曜版の読者が3人増えました。

旗」日曜版読者2人を増やしました。援助に入った井上良子県書記長も参加しました。この日は、党員のAさんの日ごろの結びつきが力を発揮しました。行動前に、近所の人から「どこに行くの?」と声かけられたAさんは、「いまから共産党の事務所に行つて、みんなを助けて、そのうち21軒で対話です」「言葉を返すと、それなら、私が購読しますよ」と驚きの返答が。Aさんたちは喜びに包まれました。

統一行動では、Aさんは支部長と一緒に「赤旗」見本紙、憲法9条改悪反対の署名用紙、山村さち子議員の要求アンケートを手に後援会員たちと対話を広げました。

昨年、党と市民が共同した要求運動で実現した路線バスの運行が実現したと、運動に尽力した日本共産党市議団が、同年7月の市議選で党議席を後退させたことにも話が及びました。「市民の暮らしを守るために、党員や「赤旗」読者を増やして共産党の県議や市議を増やす必要があります」との思いを伝えると、「だったら日曜版をとるよ」と後援会員の一人が購読を約束しました。

結びつき 読者増えた

あいさつ気軽 2人が

奈良市あやめ池支部 近所

奈良市のあやめ池支部は5連休2日目の20日、統一行動で「赤



うれしいと 感じたこと

●埼玉県所沢市でふじ東支部の荒川セイ子さん(83)が最近うれしく感じたことを語ってくれました。

・半年前に入党した60代の男性に新入党員教育を行い地域活動の大切さを話すと、働きながら「赤旗」日刊紙の配達を「日曜なら」と引き受けてくれました。地域活動にも積極的です。

東京・千代田

『Q&A「資本論」』が 面白い

労働者ら「課税は誰に」

党外の労働者が、「銀行に勤める友人と話すと、億を超えるマンションを購入する人もいるという。収入の格差が大きく開いていると感じる」と話して議論が広がり、『タックス・ザ・リッチ』に対して、年収300万円台の人が「賃上げしたら、課税されるのか」と心配していたが、そうではない。千代田には年収1億円を超える富裕層がたくさんいて、ここに課税することを理解してもらえないといけない」と話し合いました。

この日は2回目、搾取や労働時間を中心に、過労死問題など「赤本」で紹介された問題を『新版資本論』から切り抜きを用意し、読み比べながらすすめました。「食事時間や休憩時間を削る『ちょろまかし』は、いまの職場でもよく起こっている」「スポットワークや食事配達など単発仕事をどうみ

ことがなかった80代の男性が、日曜版の購読から始まって何回か話すうちに入党してくれました。2年間で読者拡大や配り配り、街頭宣伝にも参加して、すこいです。